

3. 第2次和泉市環境基本計画における課題

本市の現状や取組状況などから、本市の基本目標に関わる課題を整理します。

基本目標1 参加・協働	みんなで考え取り組むまちをつくる									
基本施策	1-1 環境学習の推進									
	1-2 環境保全活動の支援・促進									
基本目標										
環境問題について一人ひとりが自分たちの問題として意識を高めるとともに、市民等・事業者・市がそれぞれできる役割を認識し、お互いに協力して地域の環境保全活動、あるいは地球環境問題への取組みが積極的にできるよう、学習機会の充実や三者共同の取組みができる仕組みづくりを進め、環境問題についてみんなで考え、取り組むまちを目指します。										
関連する取組みの動向	当初 2009	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2次計画 目標	状況
市民を対象とした清掃 施設見学会の回数 (回/年)	2	2	2	3	3	2	2	2	2	達成
市民を対象とした自 然観察会の回数 (回/年)	3	3	3	4	3	4	3	3	3	達成
子どもエコクラブの 登録団体数(団体)	6	6	4	4	4	2	2	2	9	減少
生徒・学生を対象とした 施設見学会の開催回数 (回/年)	1	1	-	1	1	1	2	2	1	達成
植栽した本数 (万本・累計)	-	1.1	1.5	3.5	7.7	10.0	12.5	15.1	18.0	増加
環境関連図書を購入 数(冊/年)	25	36	27	52	39	39	31	15	25	達成
環境保全のために何 か行っている市民の 割合(%)	71.2	70.4	68.1	64.9	68.9	68.7	70.1	67.7	78.3	減少
イベント時のブース 設置(回/年)	1	3	4	3	5	5	5	3	1	達成
いずみ環境クラブの 登録人数(人)	45	41	38	39	40	41	44	46	68	増加
■事業の取組状況										
1-1-1 生涯学習における環境学習を推進するために										
<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの事業も環境に対する市民の意識啓発として効果的であり、環境学習への参加をきっかけとして環境に関心を持つ人を増やすことができました。 ・環境に関する事業者向け講習会の開催については未着手となっており、SDGs*など事業所にとって関心の高いテーマ設定や商工会議所などと連携した企画・開催など実施にむけた検討が必要です。 										
1-1-2 学校教育における環境学習を推進するために										
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における環境学習の推進に関しては、子どもたちの学ぶ機会の拡充について取組みが進み、児童の環境への意識の向上が図られました。 ・施設見学や自然環境の観察や体験の機会については充実が図られた一方で、協働によるエコマップ作成などについては未着手となっており、テーマや関係部局などと実現にむけた検討が必要です。 										

1-2-1 環境情報の共有化を推進するために

- ・環境保全活動への支援を推進する取組みに関しては、継続的に実施されているものの、「概ね達成できた」の評価が多くなっています。
- ・環境に関する情報の提供を継続的に実施できた一方で、環境保全のために何か行っている市民の割合については横ばいとなっており、より効果的な情報発信を行うことが求められています。

1-2-3 国際的・広域的な連携を推進するために

- ・多言語対応や一目で分かるイラストやピクトグラム、やさしい日本語表記など、外国人市民や訪日外国人への環境意識の啓発が求められています。

■アンケート結果より

- ・社会全体の環境に対する取組みが事業活動に与える影響について「事業の発展に良い影響を与える」とする事業所が約半数と最も多くなっています。また、市の各種環境施策へ4割以上の事業所が「協力したい」と回答している一方で「行政の取り組む事業の明確な提示」や「補助金の交付」「事業発展に役立つ取組事例の紹介」が求められています。
- ・SDGs*について「知らない」という市民が7割以上となっています。また、環境配慮経営を「企業の社会的責任(CSR)の一つである」と位置付ける事業所が約4割となっている一方で、SDGs*や脱炭素*・低炭素については取り入れている事業所が1割以下の結果となっており、普及啓発などが求められています。
- ・「ポイ捨てしない」「ごみの分別」「節電・節水」など身近な取組みは9割程度の方が実行しています。
- ・市の実施する環境関連講座などについて、既に参加している市民は2%未満と少ないものの、参加してみたい市民が3割程度、条件が合えば参加したいと考える市民が4割程度いるため、今後の広報手法や開催日時などについて検討が求められます。
- ・環境に関して必要な情報は「地域の環境に関する情報」が6割以上、「環境にやさしい暮らし方の実例や実践に役立つ情報」が4割以上挙げられおり、今後は、広報いずみなどを通じた情報発信が望まれます。

■環境目標の評価

- ・目標達成に向けて順調に推移しています。
- ・市民や学校を対象とした事業は環境に対する意識啓発や学習の機会として効果的でした。
- ・環境保全活動への支援を推進する取組みに関しては、継続的に実施されているものの、「概ね達成できた」の評価が多くなっています。
- ・環境情報の共有化を推進する取組みに関しては、継続的な情報発信を実施し、一定の環境に取り組む意識を地域へも波及することができました。

■今後の課題

- ・環境保全については多くの事業所で経営方針に取り入れており、社会全体の環境に対する取組みが事業活動に与える影響が事業の発展に良い影響を与えると認識している一方で、SDGs*や脱炭素*・低炭素については取り入れている事業所が少ないことから、SDGs*など事業所にとって関心の高いテーマ設定や商工会議所などと連携した企画・開催など実施にむけた検討が必要です。
- ・広報いずみなどを通じた「地域の環境に関する情報」や「環境にやさしい暮らし方の実例や実践に役立つ情報」の発信が望まれます。
- ・活動の活性化や団体間の交流については、健康や福祉、子育てなど分野横断的な推進についての検討が求められています。
- ・体験的な学習については、学習指導要綱の改訂を踏まえた地域学習の内容充実や機会の拡大など継続的に取り組むことが求められます。
- ・環境活動の推進については、市民・事業者など相手や支援のあり方も含めた検討が必要です。

基本目標2 低炭素社会		低炭素で地球にやさしいまちをつくる								
基本施策	2-1 エネルギーの適切な利用	2-3 CO ₂ 吸収源の確保								
	2-2 環境にやさしい交通手段による移動の推進									
基本目標										
地球温暖化*に代表される地球規模の環境問題について認識し、太陽光発電など自然エネルギーやバイオマス*など新エネルギー*の積極的な導入や省エネルギー化の推進などによりエネルギー消費量を削減するとともに、森林の保全や植樹などによるCO ₂ 吸収源の確保を図ることで低炭素社会を形成し、地球を大切にするまちを目指します。										
関連する取組みの動向	当初 2009	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2次計画 目標	状況
電力使用量 (千kwh)	1,279	1,185	1,093	1,112	1,214	1,180	1,159	1,150	現状維持	達成
ガス使用量 (千m ³)	103	88	90	98	90	100	103	113	現状維持	増加
浄化槽の改造費 助成制度の利用 者数(人・累計)	39	44	44	44	45	46	46	46	53	達成
水道使用量 (千m ³)	12	14	20	21	12	12	12	13	現状維持	横ばい
省エネルギー化 の事例資料を総 会時に配布 (回/年)	1	-	1	1	1	1	1	0	1	達成
市民一人当りの CO ₂ 排出量 (kg)	4,567	4,233	4,120	4,029	3,825	3,679	3,554	3,473	3,882	達成
公営駐輪場の収 容台数(台)	4,250	4,007	4,007	4,421	4,421	4,421	4,421	4,421	5,000	増加
公用車のエコカ ー(%) ※新規購入割合 (特殊車両除く)	-	0	37.5	0	0	0	100	100	50.0	増加
植栽した本数 (万本・累計) 【再掲】	-	1.1	1.5	3.5	7.7	10	12.5	15.1	18	増加
市内の保安林面 積(ha・累計)	468	468	480	480	480	480	537	584	増加	達成
植樹帯の延長 (km)	55.3 (H27時点)	-	-	-	-	0	0	0	延伸	-
■事業の取組状況										
2-1-1 省エネルギーを推進するために										
<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー化の推進に関しては、公共施設の省エネルギー化とエネルギーコストの削減については進みましたが、事業所の省エネルギー化の取組みなどについては未実施の状況です。 ・公共施設や市営住宅において自然の光や風を有効利用した建築物の導入が進みました。 ・水の有効利用については、雨水貯留タンクの設置をはじめ取組みが推進されました。 										

2-1-2 新エネルギー*の利用を推進するために

- ・新エネルギー*の利用促進については、「和泉市地域新エネルギー*ビジョン」に基づき、市民等・事業者の新エネルギー*利用や公共施設におけるコージェネレーション*や太陽光発電などの新エネルギー*の利用が概ね実施できました。
- ・ごみ焼却施設の焼却熱を利用した発電や、温水プールへの利用を図ることができました。

2-2-1 車をかしく使うために

- ・歩いて暮らせるまちづくりの推進については、駅周辺の駐輪場の整備やグリーンベルト設置により通学路の安全性、交差点改良により歩行者、自転車の安全性が向上しました。
- ・自動車の適正な利用については、自動車のイドリングストップなど、エコドライブ*の実施や低公害車の普及啓発を促進できました。

2-3-1 緑を守りふやすために

- ・市街地における植樹の推進については、公園、道路、学校などの公共施設への樹木の植栽の推進、宅地における生け垣の設置、工場や事業所の周辺など民有地における植栽を推奨し、緑化を促進できました。

■アンケート結果より

- ・地球温暖化*や気候変動について、関心のある市民が7割以上と多くなっています。また、半数以上の事業所で、気候変動を「脅威である」としています。
- ・多くの方が、7割以上が気候変動の影響が表れていると回答しており、具体的には、猛暑・気温上昇や豪雨、台風、強風などが挙げられています。今後は、気候変動による影響への対策についても検討が求められます。
- ・重要な分野としては、「事務所や工場内の節電や節水などの省エネ対策」が最も多く、次に「環境に配慮した製品の製造・販売、サービスの提供」となっており、「省エネ型の照明や電化製品、OA機器の使用」、「消灯や冷暖房の使用自粛などの省エネ」、「クールビズ・ウォームビズの励行」については既に取り組んでいる所が6割から7割となっています。また、前回の結果と比較すると、「環境に配慮した製品の製造・販売、サービスの提供」の回答が大きく増加しています。

■環境目標の評価

- ・概ね目標達成に向けて順調に推移しています。
- ・エネルギーの適切な利用に向けた施策においては、公共施設における省エネルギー化の取り組みを推進することができました。
- ・環境にやさしい交通手段による移動の推進は、継続的に実施されているものの、「概ね達成できた」の評価が多くなっています。
- ・CO₂吸収源の確保に関しては、「高いレベルで事業が達成できた」の評価が多く、森林の保全・育成・整備や市街地における植樹が推進できました。

■今後の課題

- ・気候変動による影響への対策について検討が求められます。
- ・事業者向けの取り組みについては未着手が多くなっていますが、事業所側は「行政の取り組む事業の明確な提示」や「事業発展に役立つ取組事例の紹介」を求めており、環境面のみでなく社会面や経済面など幅広い視野からの取組みや関連部局などと連携した検討が必要です。
- ・生産・流通におけるエネルギー消費の抑制については、地元での販売購入（地産地消*）を奨励や「テクノステージ和泉まちづくり協議会」など工場間の連携を通じた省エネルギー化への取組みを関係部署と連携し推進することが求められます。
- ・環境にやさしい交通手段による移動の推進については「和泉市地域公共交通網形成計画」が策定され、今後は計画に基づいた取組みの推進が望まれます。
- ・バイオマス*エネルギーの活用については、引き続き「森林整備計画」などに基づき推進するとともに、森林環境税*制度の活用など取組みの促進についても検討に努めることが求められます。

基本目標3 生物多様性*										
いきものがいっぱい自然を大切にするまちをつくる										
基本施策	3-1 生物多様性*の確保									
	3-2 自然の保全と人との共生									
基本目標										
本市には、和泉山脈などの森林、槇尾川などの河川、信太山丘陵の湿地をはじめ、社寺林や田園・ため池など、多種多様な自然環境が残されており、貴重な動植物が生息しているなど豊かな生態系*が築かれています。この豊かな自然を後世に残すため、自然環境が有する価値を知り、保全と育成により多様な自然が息づくまちを目指します。										
関連する取組みの動向	当初 2009	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2次計画 目標	状況
信太山丘陵市有地に生息している貴重動植物の数(種)	6	-	-	-	-	-	6	6	6	達成
植栽した本数(万本・累計)【再掲】	-	1.1	1.5	3.5	7.7	10	12.5	15.1	18.0	増加
市内の保安林面積(ha・累計)【再掲】	468	468	480	480	480	480	537	584	増加	達成
松尾寺公園の整備率(%)	13.40	13.36	13.36	13.36	13.36	13.72	13.72	13.72	33.50	増加
農林業に対するボランティア数(人) ※和泉の国の森づくり活動登録者数(森林ボランティア養成講座参加者数)	92	83 (8)	111 (8)	119 (12)	119 (5)	124 (5)	124 (5)	133 (14)	150	増加
ため池を訪れた人たちに快適と安全を提供すべく処置を施されたため池の数(箇所・累計)	13	13	13	13	13	14	14	14	17	増加
市民農地の利用者数(人)	687	687	667	647	667	631	603	590	増加	減少
農林業イベントへの参加者数(人)	115,500	41,150	45,037	52,297	53,822	38,262	39,129	43,543	増加	減少
■事業の取組状況										
3-1-1 多様な生物が息づく環境を保全・回復するために										
<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種*や天然記念物の調査・保全については、生息・分布状況の把握及び調査結果の公表、むやみな採取や捕獲をしないよう啓発などについての取組みを継続的に実施しています。 ・海外の野生生物や貴重種の輸入の自粛や本来の生息環境にないところへの動植物の移入による生態系*への影響、適切な飼育栽培管理と情報の周知については、関係機関などとの連携のもと対応が求められます。 										
3-2-1 豊かな森を守り育てるために										
<ul style="list-style-type: none"> ・森林ボランティアの育成については、森林ボランティア養成講座実施により新たな森林ボランティアの創出を継続して行っています。 										

- ・大阪府のアドプトフォレストによる活動が終了しました。企業による活動や連携が求められます。

3-2-2 農地を保全し有効に活用するために

- ・環境に優しい農業基盤整備については、ウォーキングイベントやファームステイなど農村と都市との交流の活性化が進みました。
- ・遊休農地*の活用については市民農園や観光型農園などの活用により付加価値の高い農地として活用できました。
- ・身近な農業体験については、農業体験プログラムの提供など高いレベルで実施する事ができました。

3-2-3 水辺の環境を守り育てるために

- ・源流部の森林や流域の農地の保全による流水の確保については継続的に高いレベルで取り組む事ができました。引き続き農地及び水と緑の一体的な保全・育成に努める事が求められます。

3-2-4 健全な水循環を確保するために

- ・水源涵養*についても緑化の推進と緑地の保全により概ね取り組む事ができました。

■アンケート結果より

- ・市の将来の姿としては約7割の市民が「緑や水など自然にあふれたまち」としています。
- ・大切にしたい場所としては、身近な公園や黒鳥山、光明池、榎尾川が挙げられています。
- ・自然とのふれあいについて週に1回以上「山・川・池・田んぼなどでふれあう」「観察する」「植木や草花を育てる」が2割以上と多くなっていますが、一方で「自然を保全する活動への参加」は「ほとんどない」が8割以上となっています。環境への関心の高さを後押しできるような、多様な関わり方についての検討が求められます。
- ・生態系サービスの内でも食べ物（農作物・魚介類）、水、紙、木材、繊維、燃料、医薬品などの供給機能が大切だと思う市民が7割以上、事業者で5割以上となっており、その他にも地域の祭りなど文化的機能を挙げる市民も見られます。

■環境目標の評価

- ・目標達成に向けた事業を継続的にこなしていますが、達成している数値目標は少ない状況です。
- ・生物多様性*の確保に向けた取り組みでは、市民参加による調査の実施や市民団体と協力した特定外来生物*についての対策が高いレベルで実施できました。
- ・自然の保全と人との共生については、森林空間の保全・育成及び農地の活用について高いレベルで実施できています。

■今後の課題

- ・生きものの生息・生育空間を積極的に創出し、生物多様性*を維持・回復することについては、引き続き実施するとともに、生態系サービスの視点からの取り組みについても検討が必要です。
- ・市民の環境への関心の高さや事業者の各種環境施策への協力に対する意識の高さを後押しできるような、多様な関わり方についての検討が求められます。
- ・引き続き、絶滅危惧種*や天然記念物の調査・保全に努めるとともに、和泉市域の自然環境の特徴やそれらの関係性など和泉市の生物多様性*についての全体像が把握可能な情報発信や啓発についての検討が求められます。
- ・農産物の直売所の設置や直販ルートの開拓などによる、安全で環境負荷の少ない農産物の販売や特色ある農業の推進は未実施となっており、関係機関などと連携のもと検討が必要です。

基本目標4 循環型社会*		もったいないの心で資源を大切にするまちをつくる								
基本施策	4-1 ごみの削減と資源循環の推進									
	4-2 廃棄物の適切な処理の推進									
基本目標										
限りある資源を有効に利用し、環境負荷を削減しながら豊かな社会を築くため、循環資源全体の再生利用率を向上することが求められます。そのため「もったいない」の心を大切にするとともに、リデュース*（廃棄物の発生抑制）・リユース*（再使用）・リサイクル*（再資源化）の3R*全体の取組みをすすめ、資源を大切にするまちを目指します。										
関連する取組み の動向	当初 2009	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2次計画 目標	状況
エコショップ 登録店舗数 (店舗)	32	16	17	17	16	16	16	16	35	-
家庭ごみ・事業 ごみの削減率(%)	69,938 (H12 年度)	20%	21%	21%	20%	22%	29%	28%	46,159t (34%減量)	減少
市役所のごみ の削減率 (袋, %)	8,680 (H12 年度)	10,062	8,408	8,182	4,498	4,938	3,604	3,564	5,729 袋 (34%減量)	達成
彩生館の利用者 数(人/年)	40,161	48,429	47,838	47,432	46,176	55,185	67,456	71,546	41,000	達成
フリーマーケット の開催数 (回/月)	2	2	2	2	2	3	3	2	2	達成
生ごみ堆肥化容 器の設置数 (基・累計)	1,714	1,845	1,882	1,903	1,926	2,252	2,340	2,380	2,300	達成
ごみのリサイク ル*率(%)	16.2	14.7	14.1	13.5	13.0	12.4	14.1	14.0	17.2	減少
集団回収登録団 体数(団体・累 計)	247	251	252	252	252	258	255	255	260	増加
和泉市ごみ減量 等推進員(リサ イクリーン*) 数(人・累計)	217	231	231	231	226	228	-	228	220	達成
不法投棄のパト ロール回数(回 /年)	34	27	40	37	44	76	-	182	48	達成
■事業の取組状況										
4-1-1 リデュース*（廃棄物の発生抑制）を推進するために										
・リデュース*（廃棄物の発生抑制）を推進する施策においては、市民・事業者・市が連携した啓発活動を継続して実施するなど、目標の実現に向けた取組みが着実に実施できました。										

4-1-2 リユース*（再使用）を推進するために

- ・リユース*（再使用）を推進する施策においては、リターナブル容器や詰め替え用容器の利用促進を継続して実施しました。
- ・彩生館でのシルバー人材センターと連携した物を修理して長く使う取組みなど、目標の実現に向け着実に実施できました。

4-1-3 リサイクル*（再資源化）を推進するために

- ・リサイクル*（再資源化）を推進する施策においては、全体的に高い水準で実施できています。
- ・生ごみの堆肥化の推進については、家庭での取組みの推進については継続的に実施できました。
- ・分別の推進については、再資源化集団回収の活動については高い水準で実施できました。

4-2-1 3R*を推進するために

- ・3R*の普及・啓発については、和泉市ごみ減量当推進員制度の活用や広報、ホームページを活用して促進できています。

4-2-2 環境負荷の少ないごみ処理を推進するために

- ・環境負荷の少ないごみ処理を推進するために、清掃工場の適切な維持管理を高い水準で継続的に実施するとともに、ごみの減量と正しい分別についての周知徹底を図り、処理工場の長期使用やごみ処理への適切な費用負担に努めました。
- ・また、廃棄物の適切な処理の促進に向け、不法投棄されやすい場所の定期的なパトロールや看板設置や警察などと連絡を取り不法投棄者の究明に努めました。

■アンケート結果より

- ・環境配慮行動として「ごみの分別をしている（リサイクル*の推進）」を実行している市民が9割以上いる一方、「ごみの減量に取り組んでいる」市民は前回アンケート比べ減少しています。
- ・環境に関する重要な分野の一つとして、「産業廃棄物の減量化、再資源化」などを挙げる事業所が3割以上となっており、また、事業者で実施している環境を良くするための取組みとして「廃棄物の分別・回収による再資源化」は8割、「廃棄物の減量化」は5割が「既に行っている」と回答しています。
- ・また、事業所が市民に求めることとして、「市民がリサイクル*活動などに努め、積極的に資源の循環を推進してほしい」を求める回答が4割となっています。
- ・市の環境をよくするための市の取組みの優先度として「健康で魅力あるまちづくりの推進」が1位となっていますが、2位及び3位として「循環型社会*の実現」を挙げる市民が多いことから、環境をよくするための優先事項として「循環型社会*の実現」が認識されていると推察されます。

■環境目標の評価

- ・目標達成に向けて、順調に推移しています。
- ・ごみの削減と資源循環の推進では、廃棄物の発生抑制を推進するために市民・事業者・市が連携した啓発活動を継続して実施するなど、取組みが着実に実施できました。
- ・廃棄物の適正な処理の推進に関しては、リサイクル*建材の利用普及に努めるとともに、公共工事の発注の際には再資源化及び再生資材の利用を推進するなどの取組みを行うなど、ごみの減量と正しい分別の周知が促進できました。

■今後の課題

- ・循環型社会*の実現はまちづくりにおいて重要であると認識され、ごみの分別を実行している市民や事業所が多くなっているものの、ごみの減量に取り組んでいる市民の減少がみられることから、生活に密着した具体的な3R*の方法やアイデアなどの情報発信が求められます。
- ・今後は、食品ロス*の観点からの取組みなどの検討が求められます。
- ・リサイクル*（再資源化）を促進するための学校や市内の農家、公共施設などと連携した生ごみのたい肥化の活用や学校給食で発生する廃食油の利用については、仕組みを含めた検討が求められます。
- ・環境負荷の少ないごみ処理の推進に向けた、廃棄物の適切な処理の促進に向けた不法投棄への対応については、引き続き関係機関と連携による対応が求められます。

基本目標5 安心・安全		健康で安全な魅力ある住み続けたいまちをつくる								
基本施策		5-1 健康なまちづくりの推進				5-2 安全なまちづくりの推進				
基本目標										
大気、水、土壌などへの環境負荷の抑制、熱・光・音・においなどの感覚環境の保全、有害化学物質による人体や環境への影響の抑制、災害などに対応したまちづくりを進め、市民が健康で安心して暮らせるとともに、本市が有する歴史・文化などを活かし、良好な景観を有する自然と共生した健康で魅力あるまちを目指します。										
関連する取組みの動向	当初 2009	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2次計画 目標	状況
環境基準*達成率 (%) 大気/水質	大気 100 水質 90	大気 100 水質 89	大気 100 水質 100	大気 100 水質 100	大気 100 水質 100	大気 100 水質 100	大気 100 水質 100	大気 100 水質 91.7	大気 100 水質 100	達成
公害苦情受付件数 (件/年)	25	25	23	22	22	22	22	22	21	減少
エコ農産物生産 面積 (a)	5,391.60	5,137.50	5,035.00	4,968.10	4,968.10	5,339.00	5,403.37	5,750.87	増加	達成
公共下水道普及 率 (%)	82.5	84.4	85.3	86.1	86.7	87.1	87.5	88.1	89.3	達成
公共下水道接続 率 (%)	89.0	89.4	89.5	89.5	89.6	89.7	89.9	90.1	90.9	達成
騒音基準達成率 (%) 道路/一般 地域	道路 71.4 一般 91.7	道路 85.7 一般 83.3	道路 71.4 一般 100.0	道路 78.6 一般 100.0	道路 78.6 一般 90.0	道路 78.6 一般 100.0	道路 85.7 一般 100.0	道路 71.4 一般 100.0	道路 78.6 一般 100.0	達成
住んでいる地域 がごみの無いきれいな街だと感じている市民の割合 (%)	58.1	57.3	-	-	63.6	65.5	-	62.1	62.0	達成
地域清掃活動の 実施回数 (回/年)	375	413	460	588	598	880	990	825	400	達成
市民一人当たりの公園 面積 (㎡)	7.3	7.4	7.5	7.5	7.8	7.8	7.9	8.0	10.0	達成
花壇の市民開放の箇所 数 (回/年)	29	28	31	51	52	49	43	43	30	達成
天然記念物に指定された樹木 の数 (本)	府7 市1	府7 市1	府7 市1	-	府7 市1	-	-	府7 市1	増加	達成
桜の里親事業の 植栽数 (本)	67	85	96	117	132	146	158	168	167	達成
緑に関する市民体験型 学習会の参加者数 (人/年)	1,507	1,120	869	1,556	1,791	1,435	963	1,095	1500 人以上	増加
緑に関する市民体験型 学習会の開催 数 (回/年)	32	37	38	198	161	129	110	162	30回 以上	達成
ポケットパーク* の整備箇所数 (箇所・累計)	1	1	1	1	1	1	1	1	増加	横ばい
植栽した本数 (万本・累計) 【再掲】	-	1.1	1.1	3.5	7.7	10.0	12.5	15.1	18.0	達成

■事業の取組状況

5-1-1 きれいな大気・水・土壌環境を守るために

- ・きれいな大気・水・土壌環境を守るための取組みは継続的に高い水準で実施できています。
- ・引き続き、環境調査や事業活動における環境負荷の削減などへの啓発の実施が求められます。

5-1-2 感覚環境（熱、かおり、音）を守るために

- ・感覚環境（熱、かおり、音）を守るための取組みは継続的に高い水準で実施できています。
- ・今後は、ヒートアイランド対策の一環として、高気密・高断熱住宅や、風や光などの自然を取り入れた省エネ建築物の普及・啓発の一層の推進が望まれます。

5-1-3 化学物質などによる環境リスクを低減するために

- ・化学物質などによる環境リスクを低減するための取組みは継続的に実施できています。

5-2-1 まちの環境美化を推進するために

- ・まちの環境美化の推進に向けた、ポイ捨てしないマナーの向上の取組みについては今後も引き続き高いレベルでの継続実施が求められます。

5-2-2 水と緑が豊かな潤いあるまちづくりを推進するために

- ・水と緑が豊かな潤いあるまちづくりを推進する事業を高い水準で継続的にを行い、目標の実現に向けた取組みが着実に実施できました。
- ・道路空間における緑のまちなみづくり、天然記念物など指定樹木の指定など、この10年間で未着手・未実施の取組みについては、事業の記載方法や表現について検討が求められます。

5-2-3 地域の個性を活かしたまちなみづくりを推進するために

- ・地域の個性を活かしたまちなみづくりを推進ために、地域の歴史を活かしたまちなみづくりや、魅力ある都市景観の形成の推進、身近な歴史や自然、生活文化とふれあう機会の拡充など、取組みの継続と充実が望まれます。

5-2-4 災害に強い安心して住める環境に配慮したまちづくりを推進するために

- ・災害に強いまちづくりに向けた取組みについては、今後も引き続き関係各課が連携し、また関係団体などとの協力のもと取り組んで行く必要があります。

■アンケート結果より

- ・市の環境をよくするための市の取組みの優先度として「健康で魅力あるまちづくりの推進」が1位となっています。市の将来の姿として7割以上の市民が「自然災害に対応したまち」を望んでいます。
- ・地域の環境の満足度が5割以上の項目として「空気のきれいさ」「工場等からの悪臭の少なさ」「街中のごみ清掃の状況」などが挙がっています。
- ・また、3割程度の項目として「ごみのポイ捨ての少なさ」、「犬のふん始末のマナーの良さ」が挙がっていますが、一方で、環境配慮行動として9割以上が「ごみのポイ捨てはしない」を実行しています。

■環境目標の評価

- ・目標達成に向けて、順調に推移しています。
- ・健康なまちづくりでは、きれいな大気・水・土壌環境を守るための事業を高い水準で継続的に行うなど、目標の実現に向けた取組みが着実に実施できました。
- ・魅力あるまちづくりの推進に関しては、まちの環境美化、水と緑が豊かな潤いあるまちづくりの推進などに向けた取組みを概ね行うことができました。

■今後の課題

- ・災害に強いまちづくりに向けた取組みについては、平成29(2017)年度から事業が始まったものが多くっており、現時点では評価が定まっていますが、今後も引き続き関係各課が連携し、また関係団体などとの協力のもと取り組んで行く必要があります。
- ・化学物質などによる環境リスクを低減するための取組みは継続的に実施できているものの、現在の社会情勢を踏まえた検討が求められます。
- ・「ポイ捨て」や「ふんの始末」については、状況把握と場所や場面に応じた対策が求められます。